

企画・制作
愛媛新聞社
営業局

行を支援する専門家として、医療ソーシャルワーカーとともに患者の不安や疑問にこたえている。

このたびは、
な対応で、療養支
関する相談件数は

は人生の一部です。生支援を掲げては、連携施設を拡充せ、同質の医療とケア。同じ質の医療とケアが確保できるように注ぐ。

一方、海人救護では1980以降、9カ島国ハイチへ飛んだドイツ赤十字の野外ノート病院で1カ月間、医薬品調達と診療支援を担った。

松山赤十字病院
 泌尿器科 院長 忠彦 先生

当店は本年4月に創立10

宮城県石巻市に入った。石巻赤十字病院を拠点に6日間、避難所の巡回や夜勤診療を行う。「不安から診療を求める被災者が多かった」と話す瀬山医師。「甚大な被害の中では一医師のできることは限られている。現地では多くの人たちの力で復興が進んでいるが、微力だが、そこに関わることができて感謝している」と振り返った。

型医療の実現・維持へ

0周年を迎えました。地域の皆様の理解は、日赤はどんな病気で最初から最後まで診療できる「一であつた」と思います。

ところが、長年にわたる国の医療費抑制策により、深刻な医師不足、看護師不足が起こり、全国的に救急患者の受け入れ拒否、たらい回しが起こりました。医療崩壊の始まりです。

当院はそれを防止するには限られた医療資源の有効活用、すなわち地域の医療機関

地域完結型

.....

博愛

松山赤十字看護専門学校

中で人道の心呼び起こす大切さ、
 2年生は看護の場で患者を救うこと
 を学び、3年生は「平・中・立」など赤
 十字の基本原則に基づいた行動がで
 きるよう訓練する。

卒業式には、赤十字の看護教育を
 受けた者だけが独断することのでき
 る「救護員制服」で臨む。

春風や「博愛の道（一筋一に）」
 松山赤十字病院交歓協にある石碑
 は、高浜虎子に師事し「ホトトギス」
 同人だった第3代院長（1920〜
 48年）の酒井曄雄氏が同校卒業式で、
 はなむけに詠んだものだ。

（これまで）2886人が同校を巣
 立ち、赤十字の理念を胸に「現場」
 へ赴いている。

6階・地上10階）を建てる。病室は6人部屋を廃して個室と4人部屋にし、病床数は670床程度になる見込み。

駐車場は4階建て立体駐車場と平面を整備し、現在より200台増の約540台へ収容力をアップ。かねて指摘されてきた駐車場不足解消を図る。

同病院は「一建設中も、診療体制に支障が出ないよう配慮する」ということだ。

清水町3丁目、学校長・湖上忠彦院長も開学100周年を迎えた。

19世紀半ば、敵味方なく負傷兵を救護したスウィス人アンリ・デュナン の唱導で誕生した赤十字社。同校では歴史ある同社「員」として「人道」を実践できる赤十字看護師の育成を旨とする。

「人を救いたくても、行動するに必要と裏付けが必要」と渡邊八重子副学校長は話す。1年生は日常の中学生で人道の心と呼び起こす大切な、2年生は看護の場で患者を救うことを学び、3年生は公・中など赤十字の基本原則に基づいた行動ができるよう訓練する。

卒業式には、赤十字の看護教育を受けた者だけが袖を通すことができず「救護員制服」で臨む。

春風や 博愛の道 一筋に

松山赤十字病院と密接にある石碑は、高浜盛子に師事し「ホトトギス」同人だった第3代院長（1920〜48年）の酒井敏雄氏が同校卒業式で、はなむけに詠んだものだ。

これまでに2886人が同校を巣

歴史が培った「最善を

立ち、赤十字の理念を胸に現場へ赴いている。

赤十字の救護を学んだ証しの救護員制服を着て臨む卒業式

1913 (大正2)	4月●日本赤十字社愛媛支部病院(60床)として開設 (現東雲学園敷地) ●日本赤十字社愛媛支部看護婦養成所を開設 (日本赤十字社愛媛支部が明治27年から開始 した看護婦養成を引き継ぐ)
1919	3月●旧制松山中学校跡地(現在の一番町4丁目)に 新築移転(91床)
1937 (昭和12)	12月●松山陸軍病院赤十字病院に指定され陸軍関係 患者を収容
1942	12月●呉海軍病院愛媛赤十字病院として戦傷病者の 収容
1943	1月●日本赤十字社愛媛支部病院を「松山赤十字病院」 と改称
1945	7月●松山空襲で全焼 ●臨時の設置として道後小学校等へ分散移転
1947	9月●松山市の都市計画により現在地に移転(100床)
1949	4月●看護婦養成所を松山赤十字看護学院に改称
1950	12月●松山赤十字看護学院を松山赤十字高等看護学院 に改称
1957	9月●総合病院の指定を受ける 診療科目 内科・外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・ 小児科・皮膚泌尿器科・歯科・放射線科・ 整形外科
1960	5月●病床数640床
1965	7月●救急病院の指定を受ける
1968	7月●臨床研修病院の指定を受ける
1972	3月●1号館建築
1973	10月●愛媛大学医学部関連教育病院の指定を受ける
1976	4月●松山赤十字高等看護学院を松山赤十字看護 専門学校に改称
1977	2月●2号館建築
1981	4月●病床数800床となる ●3号館建築 10月●創立70周年記念並びに総合落成式
1992 (平成4)	3月●病床数820床となる
1993	4月●松山赤十字看護専門学校移転(清水町3丁目)
1995	1月●阪神淡路大震災救護活動
1996	12月●結核病床(20床)の廃止、病床数800床
1997	2月●災害拠点病院に指定される 11月●地域医療連携室開設 ●財日本医療機能評価機構より認定を受ける (一般B)
2003	5月●財日本医療機能評価機構より認定(更新)を 受ける(一般病棟)
2004	7月●成育医療センター設置(NICU設置)
2005	5月●地域医療支援病院の名称使用の承認を受ける
2006	3月●地域周産期母子医療センターの認定を受ける 8月●人間ドック・健診施設機能評価の認定を受ける
2007	1月●地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける 11月●日本がん治療認定研修施設の認定を受ける
2008	2月●財日本医療機能評価機構より認定(更新)を 受ける(ver.5.0)
2011	3月●東日本大震災救護活動 4月●がん診療推進室の設置
2013	1月●電子カルテシステム導入 2月●財日本医療機能評価機構より認定(更新)を 受ける(ver.6.0)

開院当時の松山赤十字病院

看護衣
(大正1昭和17・18年)

手術室(大正2年)

薬局(昭和4年)

内科診察を受ける
陸軍患者(昭和13年)

戦傷兵を見守る山本五十六
連合艦隊司令官(昭和18年)

昭和26年建築の放射線室
(昭和40年撮影)

内視鏡(昭和52年)

病院全景(昭和56年)